リハビリテーション室

主任　金子 一雄

■　**金子 一雄　主任**

他　PT主任　　1名

　　OT副主任　1名

診療科の紹介

湘南大磯病院リハビリテーション室では，地域に暮らす皆さまが一日でも早く元の生活を取り戻し，笑顔で過ごせるよう支援することを大切にしている．病気やけが，手術直後など身体が不安定な時期で，早期から適切なリハビリテーションを行うことで，合併症の予防や生活機能の低下を防ぐことができるとされている．

我々は，その方の状態に合わせて安全かつ効果的なリハビリテーションを提供している．

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が連携し，身体機能の回復，日常生活動作の改善，高次脳機能の支援など，幅広いニーズに対応している．入院中の不安な時期を少しでも安心して過ごしていただけるよう，親切で丁寧な説明と寄り添う姿勢を心がけている．

展　望

2026年度診療報酬改定では，リハビリテーション医療において離床・活動量向上の重要性が改めて示され，ベッドサイド訓練の減算が導入された．これを受け，当部門では「できるだけ早く，できるだけ安全に離床を進める」ことを基本方針とし，離床を前提とした介入の標準化や看護部との協働体制の強化に取り組んでいる．

また，急性期から回復期，在宅まで切れ目なく支援する体制づくりが求められており，早期リハの充実はもちろんのこと，地域連携室との情報共有の整備を進め，患者さんが安心して次の生活へ進めるよう，より丁寧で一貫した支援を目指している．

さらに，アウトカム重視の流れを踏まえ，評価指標の精度向上や訓練内容の妥当性の検証を進め，日々の介入が確かな改善につながるよう努めています．

医療・介護分野の人材不足が見込まれるなか，若手療法士の育成や働きやすい環境づくりにも力を入れている．

これらの取り組みを通じて，当部門は「離床を軸にした質の高いリハビリテーション」「急性期から在宅まで続く支援」「人材育成による持続可能な体制」を大切にし，患者さんの生活再建に寄り添う部門であり続けたいと考えている．

診療実績

2025年度は依頼件数が前年よりも増加し，術後や急性疾患の患者さんへの早期介入が多くみられた．離床支援や基本動作の練習を通じて，できることを一つずつ取り戻していけるように看護部と協力しながら支援体制を整えてきた．

脳血管疾患，運動器疾患，廃用症候群の患者さんが多く，評価指標（FIM・BIなど）でも改善が確認され，生活機能の向上につながっている．退院に向けた準備も患者さんやご家族の不安やニーズに寄り添いながら進めている．

リハビリテーション診療実績

総　計：	25,952件
入院件数：計	24,361件
理　学：	19,203件
作　業：	4,016件
言　語：	1,142件
外来件数：計	1,591件
理　学：	884件
作　業：	627件
言　語：	70件

その他

医療講演：倉橋敦也「認知機能低下への対応」

～病院作業療法士からみた認知症支援と地域連携，短期入院から地域生活につなぐ取り組み～